

## 第2次千葉市文化芸術振興計画 1次評価シート

基本施策名	基本施策2_文化を創造する人材を「育てる」		
	(1)文化芸術活動を楽しむ市民への支援		
事業名	ユースカルチャー支援事業		
実施主体	指定管理者	(名称) 公益財団法人 千葉市文化振興財団	
市との関わり	その他	企画提案事業	指定管理者
市担当課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課		(連絡先) 245-5961 (内)90-2526

事業概要	開始年度	平成28年度			
	事業費	(予算) 市： 2,306	その他： 2,935	(決算) 市： 2,845	その他： 1,966
	内容	中学生から高校生までを対象に「衣装コース」「ヘアメイクコース」に分かれた舞台スタッフ体験講座(全8回)を開催し、舞台スタッフとして従事する「みんなでツクル・ライブ」を実施する。			
	目的	舞台芸術がどのように生み出されるのか、若者にとって身近なテーマを題材に実践的な体験講座を行い、舞台芸術に親しむきっかけ作りを提供し、文化を創造する若者を育てる。			
	目標	(数値) 講座応募数60名		(昨年度)衣装21名・メイク4名・ヘア7名	
	ねらい	(対象)講座/中学・高校生 (求める効果) 舞台制作の大きな役割でもあり、かつ、中高生が親しみやすい「衣装」「ヘアメイク」を取り上げて体験講座を行い、発表の場を設けることで、普段体験する機会が少ない舞台裏側の仕事に興味を深めてもらい、将来の進路を決めるきっかけ作りとなること。また、講師であるクリエイターと交流の機会をもちたり、受講生同士が協力して1つの舞台を創り上げることに携わることで、若者に文化芸術を通じた交流の楽しさを感じてもらう。			
	アプローチ方法	千葉市内の中学・高校へ講座募集に関するポスター・パンフレットの配布・掲示依頼を行い、学生たちへ講座の情報が直接届くようにするとともに手芸部・家庭科部・演劇部等の部活動へ案内を行うなど、きめ細かい情報の発信に努める。また、応募方法としてハガキ・FAXの他にEメールでも応募も可能として、若者が応募しやすい環境づくりを整える。講義では、プロカメラマンのスタイリストや音楽グループの衣装デザイナーを講師に招聘し、若者にとって実践的なものを提供していく。			
	実績	5月24日～7月2日 講座募集(応募数/衣装16名・ヘアメイク11名) 6月14日 ライブチケット発売開始 7月16日 第1回目講座 開講式・オリエンテーション・実技講習 延べ24名 7月21日 第2回目講座 情報発信講習 延べ20名 7月25日 第3回目講座 実技講習 延べ21名 7月26日 第4回目講座 実技講習 延べ21名 7月29日 第5回目講座 実技講習 延べ20名 7月30日 第6回目講座 実技講習 延べ17名 7月31日 第7回目講座 スタyling講習 延べ20名 8月3日 第8回目講座 ポートレート撮影 延べ17名 8月4日 ライブ 156名(PA席60席・見切り席26席)			
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 市政だより</li> <li>■ H P</li> <li>■ ポスター・チラシ</li> <li>■ フェイスブック・ツイッター</li> <li>■ その他(市内中学・高校へのポスター・パンフレット依頼、手芸部・家庭科部・演劇部等の部活動へのダイレクトメール)</li> </ul>				

【評価指標】 4：妥当、3：ほぼ妥当、2：工夫により改善、1：見直し

1 基本施策との適合	(1) 妥当性	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 親しみやすい「衣装」「ヘアメイク」を入り口に、普段できない舞台裏方の仕事を体験し、成果発表することは、参加した若者に新たな活動の可能性を提供できていることから、基本施策2(1)①文化芸術活動への参加促進、③発表の場の提供に沿っており妥当。
	(2) 達成度	<input type="checkbox"/> 1 <input checked="" type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 参加者アンケートでは、「すごく将来のためになる話を聞くことができ良かった」や「来年も開催してほしい」といった意見があったものの、こちらが見込んだ応募予定数に達することができなかった。ただ、千葉県外・県外の中高生や専門学校生・大学生からの参加希望があったことから、若者からのニーズがあることは実感できた。次年度以降は、対象年代を拡大することも検討したい。
	(3) 波及		(評価の内容) トレンドをけん引するアイドルグループの衣装制作を手掛けるという新たな企画により、従来になかった講座とすることで、新たな文化芸術イベントを提供することができた。【基本施策1(1)多彩な文化芸術イベントの開催への波及】 中学・高校生達が自ら制作し、実践できる講座として、参加・体験活動に繋がった。【基本施策1(2)参加・体験型活動の推進への波及】 講座を通じて、学生たちの今後の進路の選択肢を増やすなどの役割を果たすことができた【基本施策2(3)文化芸術活動を支える人材の育成への波及】
2 戦略的な視点・基本姿勢との適合	(1) 市民主体	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 参加対象である中高生に親しみやすい「衣装」「ヘアメイク」をテーマにした講座や第一線で活躍するクリエイターとの交流の機会の提供は、舞台芸術に対する敷居を無くす取り組みである。また受講生が裏方としても舞台を創り上げることに携わることは、市民主体の活動の機会を提供している。
	(2) こども・若者	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 中学・高校生達が自分たちでアイデアを出し合い、講座を進めることにより、自主性・協調性や感性を育む機会を創出することができた。
	(3) 領域の広がり	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) ・参加した学生同士でお互いの表現を認め合ったり、意見を交わしたりすることは様々な価値観に触れる機会を創出できたといえる。 ・エンターテインメントの第一線で活躍しているクリエイターとの交流も図れる講座を展開することにより、多くの参加者が影響を受け、舞台芸術への造詣や親しみを深めてもらうことができた。 ・中学・高校生が体験する機会の少ない舞台芸術における「衣装」「ヘアメイク」の講座を開催することにより、文化芸術の新たな魅力を提供できた。

3	事業のねらい	(1) 妥当性	<p>(評価の理由)</p> <p>「衣装」や「ヘアメイク」などの親しみやすいテーマから舞台の裏方の仕事への興味を深めてもらい、将来の進路を決めるきっかけ作りとなること、また、受講生同士が協力して舞台を創り上げることに携わることは、基本施策2「文化を創造する人材を育てる」に沿っているため妥当。</p> <p><input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4</p>
		(2) アプローチ	<p>(評価の理由)</p> <p>アンケートの「参加されたきっかけ」をみると「ヘアメイクさんに将来なりたいので、少しでも体験できたら」や「将来衣装関係の仕事につきたいので少しでも勉強になれば」など、将来を意識して参加する受講者が目立つことから、進路を考え始める中高生をターゲットに、普段体験できない舞台裏方の仕事を「衣装」「ヘアメイク」を切り口に体験できることは進路を決めるきっかけ作りに寄与しているため、アプローチは妥当。</p> <p>(評価に関連する数値等)</p> <p>アンケート回答結果：参加されたきっかけは？「ヘアメイクさんに将来なりたいので、少しでも体験できたら」、「将来衣装関係の仕事につきたいので少しでも勉強になれば」、「希望する進学先が服飾系だったため」、「舞台衣装に興味があったから」等</p>
4	市民との関わり	(1) 満足度	<p>(評価の理由)</p> <p>ライブに出演するアーティストが実際に着用する衣装制作やヘアメイクまで行い、舞台公演に深く携われる内容とした。共通講義として、特別講師にメイクアップアーティストや広報担当者及びアイドルグループの衣装デザイナーを招き、青少年達が相互にモデルになるスタイリングの実践講習、SNSを活用した情報発信の講義や舞台公演に関する制作現場の体験談を語ってもらい理解を深めてもらうとともに、各コースの参加者が交流ができる事業展開を図った。参加者の多くから「満足した」「今後の開催を望む」といった声が寄せられており、終了後には衣装デザイナーコンクールに作品応募する者や表現者としてモデルを目指す者が現れており、将来の文化芸術活動を担う人材育成の成果があった。</p> <p><input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4</p>
		(2) 周知度	<p>(評価の理由)</p> <p>若者の主要な情報ツールであるSNSを始め、中学校や高校へチラシポスターを配布するなどの広報活動を行い、対象者に対し直接講座情報が届くようにしたが、応募者数が目標数値に達することができなかった。</p> <p>今後においては、参加対象年齢の拡大のほか、募集期間を延ばすことや具体的な講座内容を記載するなど、周知方法の改善を図る。</p> <p>(評価に関連する数値等)</p> <p>講座応募予定数60名 応募件数27名</p> <p>アンケート回答結果：「この講座をどのようにして知りましたか？」学校からのお知らせ45.8%、学校友人から16.7%、市政だより8.3%</p>

5 効 果	(1) 活動 の 活 性 化	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input checked="" type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 進路を考え始める中高生に舞台裏方の仕事の可能性を提供できたことは文化芸術の担い手となる人材の育成に寄与できたと考える。また、アパレルメーカーのスタイリストや音楽グループの衣装デザイナーなどステージを創り上げる仕事の携わる様々な方との協働・連携ができたと考える。
	(評価に関連する数値等)		
	(2) 費 用 対 効 果	<input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input checked="" type="checkbox"/> 4	(評価の理由) 地域の文化・芸術活動助成事業として助成金の交付を受けるなど、費用の面でも効果的な事業の展開ができたと考える。また、他の自治体では余り見受けられることのないテーマを取り上げたことにより、中学・高校生達にとっては魅力的な講座を開催することができた。参加者の家族からは、今後の進路決定において大きな役割を果たしてくれ、我が子の夢を後押ししたくなりましたとの好意的な意見をもらうことができ、効果は充分であると思われる。
(評価に関連する数値等)			
(3) そ の 他 の 効 果	/	(評価の内容) ※上記(1)(2)以外の効果があった場合のみ記載 (地域活性化等なんでも可)	
(評価に関連する数値等)			